

分子生物学会年会における保育室の紹介と 2003 年実績の報告

第 26 回分子生物学会年会 2003 年 12 月 10 日(水)~13 日(土)・神戸

はじめに：保育室の紹介

日本分子生物学会では小さいお子さんをお持ちの男女会員の便宜を図るため、2001 年の第 24 回年会より、年会会場において保育支援サービスを実施しています。分子生物学会の保育支援サービスには、以下のような特徴があります。

・保育室と親子休憩室の 2 種類のサービスを用意しています。

・保育室の特徴

- ・ 会議室にカーペットを敷き詰め、おもちゃ、図書、お絵かき道具、ビデオ、お昼寝用の寝具などを用意して、保育園の一室のような環境を作っています。 **2003 年の保育室風景 ↓**

- ・ ベビーシッター協会の自主基準に従い、認可保育園を上回る人数のシッターさんを配置しています。

0~1 歳児 : 子供 2 人にシッター 1 人

2~3 歳児 : 子供 3 人にシッター 1 人

4 歳児以上 : 子供 5 人にシッター 1 人

- ・ 利用者が年会の全てのプログラムに参加できるよう、それぞれの日の最初のプログラムの開始 30 分前から最後のプログラムの終了 30 分後までオープンしています。
- ・ 簡単なおやつ・飲み物、予備のおむつは保育室で用意してあります。(ただし必要分はなるべくご持参下さい。)
- ・ 天気が良ければミニ散歩を企画し、安全な範囲で子供の気分転換を図っています。(2003 年の例)
- ・ 保育室の場所をプログラムに載せず、会場にも場所の案内を掲示しないことにより、不審者等に場所を知られないよう配慮しています。
- ・ 保育室の前に私服警備員を配置し、不慮の事態に備えています。(2003 年の例)
- ・ 事故や怪我に備え社団法人全国ベビーシッター協会による傷害保険・賠償保険に加入しています(1 事故 10 億円・1 人 2 億円)。(ただし日本分子生物学会および年会組織委員会は、保育室に関する事故に関する責任を負いません。)
- ・ 事前申し込み制で、有料です。(2003 年度で、1 時間につき 0 歳児 800 円、1~5 歳 600 円、6 歳以上 400 円。2004 年度は年齢を問わず、一律 1 時間 400 円。)
- ・ シッターの人数に余裕がある場合に限り、当日の保育も受け付けています。
- ・ 年会経費から大幅な補助が出ています。(2003 年度で、運営コストの 87%を学会が負担。)



・親子休憩室の特徴

- ・ 子供と一緒に食事や休憩、授乳、オムツ換えなどに使える部屋で、各会場に 1 ケ所ずつ用意しています。(神戸の場合、神戸国際会議場、神戸国際展示場、ワールド記念ホールの合計 3 ケ所)

- ・ 子供が床でくつろげるように、通常の机やイスの他に小さなカーペット(キルトマット)、低い机などを用意しています。簡単な遊具も置いています。
- ・ ほ乳瓶のお湯に使えるよう、年会スタッフがいる近くの受け付けに電気ポットを用意しています。(異物混入を避けるため、休憩室内にはポットは置かないようにしています。)
- ・ 他の人に気兼ねせずに授乳ができるよう、ついたてで仕切った授乳スペースを用意しています。
- ・ 予約は不要で、利用は無料です。随時ご利用下さい。利用者の自主管理ですので、ゴミ捨てや清掃にご協力下さい。(ただし親子休憩室内で起きた事故や怪我に対しては、日本分子生物学会、年会組織委員会および準備を委託するシッター会社は、一切の責任を負いません。)

第 26 回分子生物学会年会保育室の実績報告

以下は、2003 年の第 26 回分子生物学会年会における、通算 3 回目となる保育室の報告です。

(第 26 回年会組織委員会 保育室担当 伊藤啓 itokei@iam.u-tokyo.ac.jp)

1：運営体制

分子生物学会年会に始めて保育室が開設された第 24 回年会(2001 年)では保育室はワーキンググループによる独立運営だったが、2 回目の第 25 回年会(2002 年)では年会組織委員会の正式な業務のひとつとして実施され、実際の業務は事務局を委託している学会事務センター(当時)の担当者がシッター会社と連携して行なった。今回(2003 年)もこれを踏襲し、

組織委員会の保育室担当者	：全体計画の立案、業務を委託するシッター会社の選定等
年会事務局の担当スタッフ	：保育サービスに使う部屋、備品等の手配、 シッター会社との細かい交渉等
シッター会社	：利用者からの予約受け付け、健康上の注意点などの確認、 保育室備品やシッターの手配

という分業態勢を取った。

2001 年、2002 年の 2 回の保育室設置を経て、作業の流れも定式化してきたので、このような体制で十分効率的な運営を行なうことができた。

2：利用法

保育室の利用については年会ホームページで告知し、利用者がシッター会社に直接申し込む形とした。電話もしくはメールで受け付けたが、メールによる申し込みが 9 割を占めた。ただし申し込んだ人には、シッター会社から必ず折り返し電話をし、事前に子供についての詳細を電話で聞き取りした。この方式は、保護者が昼間研究室にいる時間帯にシッター会社から問い合わせの電話がかかってくることになるので、保護者には若干の時間的負担になる。しかし細かいところまで事前に聞き取りや打ち合わせができるので、メリットの方が大きいと判断した。

また 2002 年同様、利用申し込みは保護者がシッター会社に直接行なうが、利用料はシッター会社でなく年会事務局から利用者に後日請求する形とした。(これは、利用者が支払う額はシッター会社からの請求額のごく一部で、学会が残りを補填しているためである。)

3：委託するシッター会社

2001 年、2002 年は 2 回連続して横浜(パシフィコ横浜)での開催だったが、今回は神戸での開催のため、委託する業者も見直しを行なった。前 2 回にシッター業務を依頼した「アルファコーポレー

ション」とさまざまな学会で保育室運営を請け負っている「ポピンズコーポレーション」の2社に、同一の保育予定人数と実現すべき環境を示し、保育計画の提案と費用見積もりを依頼した。その結果、金額的には若干高かったが、学会会場に近い芦屋に担当支社があることによる会場との連携の良さや、提案された配置シッター数の充実度などを勧案して、ポピンズに依頼することにした。(注：これは今回の見積もりという特定の状況における判断であり、一般的な両社の比較ではないので注意されたい。たとえば2002年には同じ2社の見積もりを比較した結果、アルファに依頼している。)

アルファは食中毒やアレルギーを考え、おやつは全て本人の持参したもののみという対応だったが、ポピンズは簡単なおやつは提供するという対応だったので、単純な安全性という意味ではアルファの方が優れていた。しかし子供の立場からすると、各自が持参したおやつのみを食べるという形式の場合、もし親がおやつを子供に渡し忘れたり、量が少なかったりすると、子供が寂しい思いをすることになる。個別包装されたおせんべいなど種類を選べば食中毒の発生等は考えにくく、アレルギーのある子供には与えても大丈夫な食品を事前に確認しておけば対応できるので、安全に過敏になるよりも皆が同じおやつを食べられるという一体感を優先した。

また、会議室に1日じゅう閉じこめられているのは子供にとってもつまらないので、今回新しくミニ散歩を保育内容に取り入れた。午後の時間帯に1時間ほど、元気で昼寝をしていない希望者の子供を引率して散歩を行なった。しかし神戸国際会議場には近所に子供が遊べるような公園がないので、散歩といっても会議場の館内を散策したり近辺を少し歩き回る程度に留まってしまった。

4：親子休憩室の充実

保育室の他に利用無料の親子休憩室を設けているのが分子生物学会の特徴である。初めての試みだった2001年は会議室をそのまま使ったレイアウトが子供たちに不評だったので、2002年はカーペットと低いテーブルを用意した。今回もこれを踏襲した。また、年会事務局で購入した遊具類も並べた。2001年は休憩室は1ヶ所だったが、2002年はパシフィコ横浜のポスター会場と会議場の2ヶ所に設けた。神戸で開かれた2003年は会場がさらに分散するので、親子休憩室はさらに1ヶ所増やし、神戸国際会議場、神戸国際展示場、ワールド記念ホールの3ヶ所に設置した。

また前回の利用者アンケートで、他の利用者があると授乳ができないのでついでに欲しいとの意見があった。そこで今回は、ついでに仕切られた授乳スペースを各休憩室に設置した。

5：セキュリティの配慮

学校等に不審者が乱入する事件が増えており、子供を預かる施設はセキュリティに敏感になる必要がある。そのため、まず保育室に保護者以外が訪れるのを防ぐため、保育室の場所はプログラムには掲載せず、場所の案内も出さず、事前に申し込みをした人だけに場所を知らせるようにした。(もっとも、注意深く探せば子供の騒ぐ声などで分かってしまうのは仕方ないが。)また、部屋の扉は常時施錠し、用があるときは外から声をかけて、中から開けてもらう形にした。ドアを入ってすぐの部分にはついでに置き、廊下から一気に乱入できないようにした。さらに、保育室の入り口を見渡す廊下に私服の男性警備員を1名配置し、人の出入りを常時チェックするとともに、万一の場合に機敏に対処できるようにした。

6：利用人数の見積もりと利用者の傾向

保育室の設営には、だいたいの利用者数を予め見積もる必要がある。2001年、2002年は横浜で開かれたが、2003年は関西圏の神戸で開かれた。これによって保育室の利用者がどの程度変動するか

の予測は難しい。他学会の例では、同じ学会でも東京圏で開催した年に比べ、東京圏以外で開催した年には保育室の利用がかなり少なくなるという傾向がある程度見られた。そのため、保育室の恒例化、周知化を差し引いても、昨年よりも利用者が多くなることはないと推定した。

実際、第 24 回は 17 家族 19 名(のべ 34 名)、第 25 回は 20 家族 25 名(のべ 45 名)の利用があったのに対し、今回は 12 家族 14 名(のべ 32 名)の利用に留まった。ただし利用した人数に比べ、のべ人数の減りは小さい。1 人あたりの平均利用日数は増加しているということになる。

利用者数：12 家族 14 名(のべ 32 名)

	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳～	計
12 月 10 日	1	0	1	0	2	1	0	1	6
12 月 11 日	1	2	2	0	2	1	0	1	9
12 月 12 日	0	2	2	1	3	0	0	1	9
12 月 13 日	1	0	1	1	3	0	0	2	8

年会参加者には他の地方から泊まりがけで出張して来る人と、地元から日帰りで通う人の 2 種類がいる。出張組の人はなるべく子供を親戚等に預けてくる傾向がある一方、日帰り組は学会に参加する日は家に帰るのが遅くなるため、地元の保育園に預けずに子供を会場に連れてくるケースが案外多い。このため、日帰り範囲内に居住する研究者が多い東京圏での年会開催では、日帰り組の保育室利用が多いため、利用者数が底上げされる傾向にあるようである。

実際、横浜で開催された前回は利用者 20 家族のうち地元の東京と神奈川が 7 家族、出張組(筑波地域の人も出張組と推定した)が 13 家族であったのに対し、神戸で開催された今回は利用者 12 家族のうち地元の京阪神は 2 家族のみで、出張組が 10 家族、うち東京圏は 5 家族だった。関西圏で開催された今回は地元の利用者が少ないことと、東京圏の人が地元開催の前回は子供を会場に連れてきたが、出張をとまう今回はなるべく連れてこないようにしている傾向があることがうかがえる。

また、今回の利用者 12 家族のうち、夫婦での年会参加者が 6 家族と半分を数えた。夫婦が共に研究者の場合、年会保育室が使い勝手の良い育児支援になっていることがうかがえる。一方両親のどちらかが子供を連れてきたケースでは、母親が連れてきたケースが 5 家族、父親が連れてきたケースは 1 家族だった。年会参加者全体では男性の方が女性より多いことを考えると、女性研究者の場合、学会出張であっても育児をパートナーに託すことができず、子供を連れてこざるを得ない反面、男性研究者は子供をパートナーに任せているケースが多いことがうかがえる。

7：利用料の見直し

子供がいるとただでさえさまざまな出費が多い。また出張の場合、ビジネスホテルには温泉旅館などと違って子供料金の設定がないので、宿泊費も大人 1 人分かかってしまう。そのため保育室の利用費はなるべく低廉に抑えたいところである。今回はさまざまな状況を勘案した結果、6 歳以上をわずかに値下げして、前回は 1 歳以上は一律 1 時間 600 円だったのを、6 歳以上は 400 円とした。また、前回は予約した時間より実際に預けた時間が短かった場合も、予約した時間分の費用を全て請求したが、今回は実際に利用した時間分の費用のみを請求した。予約した時間より実際の利用時間が少なかった利用者はかなりの比率に上るので、この点では実質的な値下げになっている(後述)。

今回利用者に請求した費用は合計 83,700 円で、シッターや備品レンタル、警備員等に学会が支払った費用の総計は 627,655 円。差し引き 543,955 円(総費用の 87%)を年会予算から支出している。

8：キャンセル問題

男女共同参画推進の流れの中で、学会が年会期間中の保育室をサポートすることは多くの学会で当たり前のことになりつつある。分子生物学会でも、保育室の運営コストの過半をすでに学会が負担しており、保育室利用者から徴集しているのは全利用者をあわせても 10 万円程度に過ぎない。この金額は、1 回あたり 2 億円を軽く超える分子生物学会年会の総予算から考えれば誤差の範囲といえなくもない。しかしだからといって、利用料の大幅な値下げや完全な無料化が難しい要因もある。そのひとつが、保育室の利用申し込みにはキャンセルが多いという問題である。

下の表のように、申し込みがあった人数よりも実際の利用人数の方が大幅に少なかった時間帯はかなりの比率に上る。予約に従ってシッターが待機していたにもかかわらず子供が 1 人も来なかった時間が 4 時間(濃いグレーの部分)、シッターよりも子供の数の方が少なかった時間が 11 時間もあった(薄いグレーの部分)。1 人の子供を 3 人 4 人のシッターで面倒見ていた時間帯もある。子供としてはそれなりに楽しかったとは思われるが、予約に合わせて人数を調整したはずのシッターがこのように無駄になるのは、保育室運営コストの過半を負担する学会にとっては大きな経済的問題である。

時間帯ごとの、利用予約があった子供の数、実際に利用した子供の数と、配置したシッターの数

時間帯	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30	
12月10日																										
予約人数	4	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	4	3	2	2	0	0	
実際の人数	0	0	1	1	2	2	2	0	2	2	3	5	5	6	6	5	5	5	3	1	1	0	0	0	0	
シッター数	2	2	2	2	2	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	2	2	2	0	0	0	
12月11日																										
予約人数	4	7	8	10	10	10	10	8	8	5	6	8	8	8	8	8	8	8	8	4	2	2	2	2	2	
実際の人数	0	3	5	8	8	8	7	3	4	3	5	7	7	7	7	7	7	7	5	1	1	0	0	0	0	
シッター数	2	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	5	6	5	5	3	2	0	0	0	0	
12月14日																										
予約人数	2	3	4	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7	6	6	7	7	4	4	2	1	1	1	1	1	
実際の人数	0	1	3	5	5	5	3	5	4	3	5	7	7	6	6	7	7	3	2	1	1	1	1	1	0	
シッター数	1	2	2	3	3	3	3	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	1	1	1	1	1	0	
12月15日																										
予約人数	4	4	6	8	8	6	6	4	5	5	5	3	3	2	2	2										
実際の人数	1	2	4	8	7	4	3	1	4	4	4	4	1	1	0	0										
シッター数	2	2	3	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	2	2	2										

保育室の利用を完全に無料にしている学会では、キャンセル率はもっと高いケースもある。保育室を無料もしくは低コストにすると利用者が安易に予約して安易にキャンセルする可能性が高くなるというのが、保育室の無料化、低廉化への反対意見の大きな論拠になっている。

とはいえ、保育室は小さい子供が対象なので、突然のキャンセルにはやむを得ない面もある。急に子供が熱を出して保護者が年会への参加自体を取りやめたケースもありえるだろうし、最高 10 時間を超える託児時間の中で、子供が飽きてしまったり調子を崩してしまったりしたケースもありえる。このような点を考慮して、今回は前回と異なり、予約したにもかかわらず利用しなかった時間帯については費用を請求しなかった。つまり、キャンセル料は無料として扱ったわけである。

だがキャンセル料の有無に関わらず、いったん予約があった以上はシッターは手配されており、利用者がキャンセルすれば学会がその分無駄な費用を負担することには変わりはない(シッターの依託費用は、今回の実績でシッター1 人につき 1 時間 2,600 円)。保育室の利用者のパターンは、予約したうちの半分かそれ以下の短い時間しか実際には保育室を利用しなかった方と、ほぼ予約通りに保育室を利用された方とに、二極分化している。キャンセルを当然視してとりあえず多めに予約され

た方と、本当に預けそうな時間を吟味して予約した方がいたことをうかがわせる。

保育室の予約は、シッターを手配して依頼するのにぎりぎり最低限の時間だけを確認して、年会初日の数日前まで変更を可能にしている。2004年の第27回年会では、保育室利用料を年齢によらず一律1時間400円と大幅に値下げした。それだけ学会の費用負担の割合は増え、キャンセルで学会が被る損失も大きいことになる。年会の総予算が2億円を軽く超えるといっても、収支はいつもギリギリであり、無駄な出費は出来る限り抑える必要がある。保育室の利用料低廉化への支持を今後とも維持するためにも、シッター配置になるべく無駄を出さないよう、利用者の皆さんは子供を実際に預ける時間帯をなるべく精密に吟味して予約するようにご協力いただけると幸いである。

9：今後の課題

利用者やシッターの意見から、以下のような課題が指摘された。

・加湿器

保育室の室内はかなり乾燥していたため、加湿器を設置した方が良かった。今回は、水分補給と紅茶スプレー(空気殺菌と保湿を兼ねる)で対応した。

・カーペット

保育室は子供がリラクセスして過ごせるよう、カーペットを敷き詰めた。しかしこれにより「カーペットアレルギー」の子供の保育ができなくなってしまった。最近の保育園にあるようなフローリングの床は会議場には望めないで、居心地が良く、なおかつアレルギーも少ないような持ち込み式の床材を将来的に検討する必要がある。

・保育内容の案内

保育室はセキュリティのために場所も隠されており、一般の年会参加者の目には触れることがない。これは一方で、保育室を始めて利用される方にとって、どの程度の保育が実施されているのかの情報がなく、不安を与えることにもなる。これを考慮してこの報告書では、冒頭に写真付きで保育内容を簡単に紹介し、保育室の利用を検討している人へのパンフレットの役割も果たせるように努力してみた。利用を検討している方の参考になれば幸いである。

10：第26回年会保育室(2003年)・費用内訳

支出：	シッター会社関連：	人件費	345,345 円
		交通費	26,320 円
		備品手配・レンタル代	72,240 円
	警備会社関連：	警備費	79,800 円
	年会事務局で調達したレンタル備品：		
		保育室のテレビモニター、ビデオデッキ、ついたて	40,950 円
		親子休憩室の仕切りパネル	63,000 円
		合計	627,655 円
収入：	保育室利用料：	家族あたり 800 円～12,000 円	合計 83,700 円

※ 差し引き 543,955 円(総費用の 87%)を年会予算で負担した計算になる。

謝辞：第26回年会での保育室実現に尽力して下さった年会長の勝木元也氏、庶務幹事の諸橋憲一郎氏、運営ノウハウを教えて下さった男女共同参画ワーキンググループの大坪久子氏、行き届いた運営を実現して下さった学会事務センターの峰崎愛氏、浜田朋子氏、ポピンズコーポレーション芦屋支社の首藤文氏に感謝いたします。